

ショートテニス体験が子供の心に及ぼす影響に関する一研究

西東京市小学生他が、近くの早稲田大学庭球部の「挨拶、礼儀作法」を重視した小学生テニス教室（平成8年開始、年3回、1回当たり2日間、10時から15時、小学生70人、指導者はベテランプレーヤー約20人、体育館でキッズテニスコート8面使用、初心者もラケットが軽い、ボールがスポンジのため2日目の午後にはゲームが出来るようになる）に、延べ1,500人参加したが、「ショートテニス体験が子どもの心に及ぼす影響に関する一研究」（早稲田大学人間科学部2000年卒業研究、早稲田大学人間科学部人間健康科学科 安原美里、指導教員 菅野 純）という形でその成果が報告されている。今回開催を考えている「マナー・キッズテニス教室」の目指すところは同じであるので、その要旨を紹介する。

1. はじめに

私は大学4年間OBが主催する小学生テニス教室に補助員として関わってきた。この教室は小学生の初心者を対象とし、ショートテニスという方法を用いた2日間の教室であるが、そこでは子供の様々な変化に出会うことが出来た。初日の朝には他の子や指導者と口をきくどころか、目も合わさなかったような子がショートテニスをしていくうちにイキイキしてゆき、他の子に何かを教えたりするようにすらなっていたりしたのだ。これらのことは私にとって大きな驚きであった。そしてこれらは、一般的にいわれる「慣れ」や「緊張の緩和」による変化だけではなさそうだと思うようになった。

そこで実際に私自身が大きな変化に出会い、驚いてきた「挨拶、礼儀作法に重点を置いた小学生テニス教室」をフィールドにショートテニス体験が子供の心に及ぼす影響について検討し、スポーツの精神面、心理面への効果を示す足がかりとしてみたい。

2. 本小学生テニス教室の特徴

子供がスポーツをやるということは、プレー自体よりも重要なものを学ばせてやることの出来る絶好の機会に恵まれたということである。このような考えを基に本教室では、ただ、プレーの上達のみを目指すのではなく、子供の内面の教育も行なっていく事を目的に以下のような試みが行なわれている。

- (1) 開講案内に「子供が心からスポーツを愛好するかどうかは家庭環境による、また、躰は家庭からといわれています。とりわけ父親の果たす役割は重要だと思われれます。父親も極力参加されるようお願いいたします」と記載し、家庭環境の大切さを、特に、父親の積極的な参加を呼びかけている。
- (2) 体育館に着いて人に出会ったら、立ち止まって、大きな声で「おはようございます」、帰る時には「ありがとうございました」「失礼します」ときちんと挨拶が出来るようにしている。
- (3) 受付は受講生一人で行い、「おはようございます」「〇〇小学校の〇〇〇〇です」「よろしくお願ひします」ときちんと挨拶が出来るようにしている。
- (4) 開校式では、全員の前で氏名、小学校名、学年、抱負の自己紹介を30秒以内に自分の言葉で、大きな声で姿勢を正してしっかり行なってもらう。
- (5) 子供に1日目終了時に以下の文章を配り、読んで2日目の朝、感想文を提出させている。

スポーツの素晴らしさを理解するために、小泉信三氏（元慶応義塾大学塾長）の「スポーツ三つの宝」（「練習は不可能を可能にする」「フェアプレーの精神」「友は人生の宝」）

テニスの心を知るために福田雅之助氏（第1回全日本テニス選手権チャンピオン）の「この一球」（この一球は絶対無二の一球なり、されば身心を挙げて一打すべし、この一球一打に技を磨き体力を鍛え精神力を養うべきなり、この一打に今の自己を発揮すべし、これを庭球する心という）「球趣」（「テニスを楽しみ健康になれ」「行き交う球に友情を温めよ」「フェアプレーをモットーとせよ」「この一球を真剣に打て」「規則に従い常に全力を尽くせ」「良いマナーを身につけよ」「テニスを通じてよい人間になれ」

このような、ただプレーの上達のみを目指すのではなく、スポーツマンシップ、挨拶等の基本的マナーなど様々なものを体得するようにと織り込まれている内容によって、ただのスポーツ教室とはどのような違いが現われているのだろうか。

(1) について・・・父親の参加が目に見えて多い。

⇒母親が付き添うことが一般的な考えであるためか、父親が参加すると両親がそろって参加することになる生徒が多い。そのためか、昼食時などが、家族の団欒の場となっている生徒が多い。

(2) ついて・・・きちんと挨拶をする子供が多い。

⇒始めはきちんと挨拶をしない子供が多いが、きちんと挨拶させるように徹底させているためか、教室終了時には、ほぼ全員が「ありがとうございました」と挨拶して帰っていく。

テニスはマナーのスポーツとも言われており、コートの上でもゲームの始まりなどに挨拶をさせるのだが、慣れないコート上での挨拶も教えると比較的すんなりで行なうことが出来ている。

きちんと挨拶をするので、おのずと人の目をきちんと見て話すことができるようになっている。

(3)(4) について・・・自己紹介ができる子供が多い。

⇒教室開始の時に自己紹介をやっているので、各コートに分かれての練習の始めなど、その後簡単に自己紹介や何球続けるかの目標を言ってもらえることがあるが、すんなりで行なうことが出来ている。

休み時間などに、補助員に「一緒に打って欲しい」といってくる子はいるが、その時にきちんと自分の名前を述べる子供が多い。

(5) について・・・実際に提出された一小学生の感想文を紹介し、少なからず子供の心に影響を及ぼしていると思われることを示したい。

「私はこの21世紀に生きる君たちへを読んで、まだ、私達はたのもしい君たちにはなれていない。そして、私達がたのもしい君たちになるために、司馬遼太郎さんはこの文章を書いたのだなあと思った。でもなぜ、テニスの教室なのに国語の宿題が出たのかということ考えた。テニスを通じて日常生活の基本的マナーや常に他の人を思いやる気持を身につけることで、たのもしい君たちになることが出来るのではないのだろうか。結局、司馬遼太郎さんは21世紀というものを見ることができずに一生を終えたけれど、私はこれから21世紀を生きる人として、司馬遼太郎さんのたのもしい君たちになりたいと思う」

3. ショートテニス体験後の心の変化

2000年7、8月に開催したテニス教室に参加した者のうち、小学生1年生から3年生の計89名（男子48名、女子41名）を対象とし、その親に子供について答えてもらうという形式、無記名式によって質問紙調査を実施した。

(1) 全体について

「元気ようになった」「目標を達成しようとするようになった」「挨拶、お礼が出来るようになった」「意欲を持って物事に取り組むようになった」「目を輝かせるようになった」「何かに負けたり、失敗すると悔しがるようになった」「イキイキするようになった」「物事に真剣に取り組むようになった」という各項目で変化がみられた。

(2) 自由記述欄について・・・「心の変化」と思われるものが関係しているものを原文のまま示す。

テニス自体よりも挨拶などの基本的マナーの方を重視されている教室だということが印象的でした。宿題についても少し驚きましたが、学ぶところがあったと思います。ただ、新しいスポーツに挑戦しただけでなく、スポーツというものを介して親子共々様々なことを学ばせて頂いた教室だった。

子供の持っている力は回りの人（大人）のちょっとした言葉で、色々な可能性を引き出せるものだと感じた。色々な経験をさせることは子供に何か自信と強さ、たくましさ、やさしさ、くやしきなど様々なものを得られると思った。

日頃は、夏休みの宿題をやるのも嫌そうに文句をいうことが多いが、今回の教室では一日テニスをやってきて、つかれているはずなのに自分から「テニスの宿題やる」といったので驚いた。

最初はあまり乗り気でなかったのに、先生方に誉められて嬉しかったらしく、帰ってからも「僕が一番うまかったのだ」「先生が明日またあいましょうと言ったから、明日も行かない」と言っていた。また、2日目の朝も出発時間前から早く行かないとせかせかしていた。

二日目は実力よりも上のクラスであったせいか、前日よりも思うようにいかず、少し落ち込んでいたが、弱音は吐かなかった。また、今まで人のことを評価することはなかったが、「僕のグループにすごく上手な子がいたよ」と何度も言って、自分と比べて上手な子に「すごい」という気持ちが出たようだった。

以前はテニスに連れていってもさほど興味を示さず、ただ終るのを待っているという状態でしたが、最近は自分も一緒にやりたいという表情が出てきて、また、テニスをしている最中もとても熱心で少々驚いている。

新しいことに何でも取り組みたがるようになった。

難しいことほど積極的に参加したがるようになった。（キャンプのテント張り、食事の準備、食器洗いなど）

厳しく教えてくれているので子供もすぐに雰囲気を感じ取り、キッチリやろうとおきな声で返事をするようになった。

物事がうまくいかないと、今までは泣いてメソメソして悔しがっていたが、そのことについて一つ一つ自分自身が思うような形になるまでは、何度もチャレンジしていこうとする粘り強さがでてきた。

友達が上手に出来ていた事、先生方がとても親切で優しくして下さる、両親と一緒に行動できること、友達の両親も暑い中大変であったことなど、自分の事だけでなく、周りの人達のことやその人達の苦勞を理解し、更にその全てが自分の楽しみに結びついていることを深く考慮できるようになった。

人前に出た時恥ずかしがっていたのが、少し恥ずかしがらなくなった。

以前はテニスに連れていってもさほど興味を示さず、ただ終るのを待っているという状態でしたが、最近は自分も一緒にやりたいという表情が出てきて、また、テニスをしている最中もとても熱心で少々驚いている。

新しいことに何でも取り組みたがるようになった。

難しいことほど積極的に参加したがるようになった。(キャンプのテント張り、食事の準備、食器洗いなど)

厳しく教えてくれているので子供もすぐに雰囲気を感じ取り、キッチリやろうとおきな声で返事をするようになった。

物事がうまくいかないと、今までは泣いてメソメソして悔しがっていたが、そのことについて一つ一つ自分自身が思うような形になるまでは、何度もチャレンジしていこうとする粘り強さがでてきた。

友達が上手に出来ていた事、先生方がとても親切で優しくして下さる、両親と一緒に行動できること、友達の両親も暑い中大変であったことなど、自分の事だけでなく、周りの人達のことやその人達の苦勞を理解し、更にその全てが自分の楽しみに結びついていることを深く考慮できるようになった。

人前に出た時恥ずかしがっていたのが、少し恥ずかしがらなくなった。

テニスという一つのことを人と一緒に考え、練習したりする中で、自分のことを考え、そして相手のことも考えるようになった。

友達を自分から作れるようになった。

集中力がついた。

以前は「あーだ、こーだ」と言っておまかせとしていたのに、素直に家の仕事をしてくれるようになった。

短い時間でしたので、子供の大きな変化として具体的に感じるほどまでに変わったとは思えないが、テニスが好きになり、早くうまくなりたいという情熱が沸いたのは明確だった。

性格が二日間の前後で目に見えて変化するという事はなかったが、自信がついた。

人見知りをしなくなった。

挨拶が大きな声で出来るようになった。

表情が明るくなった気がする。

「気合を入れて頑張ろう」とよく言うようになった。

「パパ兄貴ばかりじゃなく僕もみてよ」といった、自己顕示性は他の習っているスポーツではなかった。

(以上)